

国際英語科 2年 学校設定教科ワールド・スタディーズ 「アクション発表会」報告

2月16日（金）の5・6限に国際英語科の2年生が、1年間取り組んできたゼミ活動について発表をしました。国際英語科の1年生が発表を聞き、活発な質疑応答が行われました。

国際英語科2年生の生徒たちは4月から自身の興味・関心に基づいたゼミに分かれ、それぞれテーマを持って活動してきました。プラスチックリサイクル、ジェンダーレスファッション、人種差別、防災など、何らかの社会的課題についてこれまでゼミで調査・研究を進め、夏休みにはフィールドワークやインタビューなども行いました。冬休みから3学期にかけては、ゼミごとに社会的課題の解決に向けたソーシャル・アクションを行いました。

アクション発表会では、以下のようなアクションが発表されました。（一部抜粋）

- 防災センターのイベントに参加し、子どもたちに防災の啓発活動を行った
- コンタクトレンズの会社が持っている仕組みを活用して学校でコンタクトレンズのケースを回収し、プラスチックのリサイクルを推進した
- ユニセフに協力を依頼し、貧困に苦しむ子どもたちのために募金活動を行った
- ジェンダーレスファッションの服を作ってみた
- 税金の使い道について多様な市民と対話するため、イベントに参加して意見表明をした
- 脱プラ生活（プラスチックを極力使わない生活）を試してみた

このようなアクションを計画する段階において、生徒たちは特定非営利活動法人こどもNPOの方々にたくさんのアドバイスをしてもらいました。今回の発表についても、それぞれのゼミに対する丁寧なコメントと励ましのお言葉をいただきました。「大きな社会問題であっても、身近なところからできるアクションに落とし込んで取り組むことができている。」「困難に直面してもあきらめず、自分たちができるアクションを模索していたことが素晴らしい。」と評価していただきました。

発表会に参加した1年生からも様々な角度から質問が出され、活発なやり取りが行われました。2年間のワールド・スタディーズの授業の締め括りにふさわしい会となり、生徒たちも達成感を得られたようです。



生徒の声

こんなにもアクションを広げられるとは思ってなかったので良かったです。自分も防災の知識を身につけることが出来ました。静岡大学、防災センターの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。沢山の会議や準備は大変だったけれど、限られた時間でしたが、みんな協力した結果ワークショップが大成功したので良かったです。また、名市大の会議にも参加出来て色々な視点から防災について学ぶことができ、発表を通してみんなに共有できました。防災の知識は絶対役立つと思うのでとても意味のある学びでした。(防災)

半年以上もかけての活動だったので、自然とプラゴミ問題などの記事やニュースに関心をもって見るようになった。逆に他のグループが取り扱っているような内容のものについても、以前と比べればだいぶ身近なものであると思え、クラスメイトとあらゆる社会問題について触れる機会が増えたので、今ある世界の現状が私の目に鮮明に描かれ、限りない探究心をそそられた。そのような基礎知識は1年生のときのワースタで得られたものも多いなと思った。1年前の学びが今こうしてわたしが社会問題について考え、アクションをするというところまで持ってきてくれていて、昨年度の授業や長期休みの大変なレポート作成も無駄ではなかったと思えた。受験が終わって無事に大学生になることができたなら、アルバイトと並行させながら様々な分野のボランティア活動に参加してみたいと思う。(プラスチックリサイクル)

去年よりも一つ一つの発表に時間をかけて取り組めたり、こだわりをもってできたのが良かった。初めてフィールドワークに行ったり外部での発表を行ったり、一人でやろうと思うと勇気があることにもゼミの子たちと一緒に挑戦できたのが面白かったし、良い体験になったと思う。私はLGBTQ+という直接人の心に関わることについて、当事者の方とお会いして研究したので、ただ問題を解決に近づけるだけではなく、新しく考えさせられたことが沢山あったし、もっと社会・世界のことについて関心をもって関わっていきたいと思った。(セクシャルマイノリティ)

フィールドワークは保護施設で活動させて頂いて順調にいったけど、そこで学んだことをアクションに生かすのがとても難しかった。アクションは協力していただける機関ありきなもので、できれば相手とこちらの利害が一致しているとやりやすいと学んだ。しかしアクションをどうしようか模索したり、協力を依頼したりする中で相手側を配慮して動いたり、予想して動くことを学ぶことが出来た。(猫の殺処分)